

#### (4) 児童図書・研究図書の収集

児童及び児童図書を研究する利用者のために、児童書では、子供たちに読んでほしいと願い選んだ図書・課題図書・各種受賞図書・教科書に取り上げられている作品の原書及び郷土出身作家・画家の図書を中心に収集した。

研究資料については、児童文学や絵本についての作家論・作品論を中心に収集した。復刻書、雑誌も昨年に引き続き収集した。

#### (5) 逐次刊行物の収集と整備

利用者の多様な要望に対応すべく、各分野の定評ある雑誌を収集すると共に、今年度も文学関係雑誌の復刻版を収集し、資料の充実を図った。

新聞については、地元紙、中央紙の収集保存に努め、特に今年度は、福島新聞の明治期と地元紙のマイクロフィルム化により、汚・破損防止に努めると共に、郷土関係記事のクリッピング等によって利用者の利便を図った。

[表1] 平成9年度逐次刊行物受入整理状況

区 分	購 入	寄 贈	計
新 聞	22	59	81
雑 誌	211	922	1,133
官 報 等	3	—	3
計	236	981	1,217

[表2] 平成9年度資料の受入状況

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	6,683	1,939	8,622
郷土・行政資料	935	3,706	4,641
児 童 図 書	846	12,786	13,632
児童図書研究室資料	991	231	1,222
館 外 用 図 書	3,650	2,162	5,812
計	13,105	20,824	33,929

### 第3節 館内奉仕

直接来館あるいは電話や文書による県民の資料・情報要求が多く寄せられている。

内容的にも、ここ数年来の多様化、専門化の傾向はますます顕著になっているので、資料の充実とともに利用環境の整備にも努力した。

#### 1 調査相談

当館に情報や情報源の調査を求める利用者は、本年度も持続して増加した。これらの要求に可能な限り応えるために、参考資料の整備はもとより各専門機関との連携、レファレンスツールの充実、担当職員の資料運用力の向上などサービス体制の強化に努めた。

その結果は総件数16,592件であった。

[表3] 記録された参考質問の分析

(単位：件)

区分	郷土資料	一 般			逐次刊行物	小計	児童	計
		人文	社会	自然				
口頭	1,231	2,741	3,261	1,161	909	9,303	375	9,678
電話	1,394	1,985	1,070	448	547	5,444	127	5,571
文書	144	969	123	43	56	1,335	8	1,343
計	2,769	5,695	4,454	1,652	1,512	16,082	510	16,592
		11,801						

### 2 館内奉仕

約14万3千冊の開架図書をはじめ全蔵書が容易に、そして自由で快適な環境のもとに閲覧できるよう、案内・表示の工夫や的確な利用者対応に留意した。

また、利用者の図書館要求を把握し、できるだけそれらを運営に反映させるために努力した。

### 3 館外個人貸出

一度の来館につき、1人4冊以内で2週間の館外貸出を行い、非所蔵資料は「予約制度」により提供し、遠隔地の利用者には最寄りの図書館に返却可能な制度を設けるなどいつでも、どこでも、誰にでも、求める資料が確実に入手でき、しかも利用しやすい条件づくりに努めた。

館外貸出利用者数の割合は、一般62.4%、児童37.6%、館外利用図書冊数の割合は、一般59.1%、児童40.9%であった。

[表4] 館外個人貸出利用者数

区 分	人 数	構成比(%)	区 分	人 数	構成比(%)
勤 め 人	12,841	46.5	学 生・生 徒	5,871	21.2
自 家 営 業	1,616	5.9	小 計	27,617	100.0
主 婦	3,365	12.2	児 童	16,642	—
無 職	3,924	14.2	合 計	44,259	—

[表5] 館外個人貸出利用冊数

分 類	冊 数	構成比(%)	分 類	冊 数	構成比(%)
総 記	1,490	2.0	語 学	1,117	1.5
哲学宗教	3,989	5.4	文 学	14,940	20.1
歴史地理	8,551	11.5	郷土資料	4,099	5.5
社会科学	13,085	17.6	雑 誌	1,504	2.0
自然科学	7,307	9.8	小 計	74,246	100.0
工学工業	6,827	9.3	児 童	51,419	—
産 業	3,852	5.2	合 計	125,665	—
芸 術	7,485	10.1			